

今年の1月16日、政府は青森県を中心とする「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産推薦書をユネスコへ提出した。順調に審議が進めば、来年中には正式に世界遺産登録される予定であり、青森県の縄文遺跡群が世界の宝として認められる日が近づいている

と云えるであろう。これらの青森県の縄文遺跡群の一部は、遺物を表面採集できたことから、古くからその存在を知られていた。江戸時代後期の著名な紀行家である菅江真澄も三内丸山遺跡（青森市）を訪れ、縄文土器の実見を行ったこと等を詳細なスケッチ

を交えた紀行文として発表している。その反面、有名な遺跡であるがゆえに江戸時代には盗掘の対象となった。特に亀ヶ岡遺跡（つがる市）から出土した遮光器土偶は、高値で取引されていた記録もある。また、近代に入ると県外の有名大学等が学術調査を実施したため、「縄文王国青森」の評価は揺ぎ

ないものとなる。の常設展示の中で、全国の縄文時代中期の土器を比較できる展示がある。数ある北東北の土器型式の代表として、大久保遺跡出土の円筒上層式土器が展示されている。あまり知られていない遺跡だが、歴博には同遺跡の遺物が完形の土器を含め、6000点余りが収蔵されている。また、レプリカではあるが、縄文時代の死生観を紹介する展示コーナーには、薬師前遺跡出土で棺として使用された土器（いわゆる甕棺）が展示されている。

書は東博が所蔵する青森県出土の埋蔵文化財を数多く掲載しており、東博のミュージアムショップ等で購入が可能だ。東博には、この他にも五戸町出土の土器や石器が所蔵されているが、常設展示ではないので見学の際は確認が必要である。

青森県出土の埋蔵文化財が、県外で所蔵されていることに対しては賛否が分かれる所であろう。しかしながら所蔵の経緯はどうあれ、これらの施設で所蔵されている埋蔵文化財は、地域を代表する遺物として認められたものである。青森県の優れた埋蔵文化財が県外に流出したことは残念ではあるが、現状では、青森県の歴史を紹介し魅力を伝える重要な役割を担っていることもまた事実なのである。今回紹介したものの以外にも、多くの県外の博物館で多種多様な青森県出土の埋蔵文化財が所蔵されている。博物館を見学する際は、これらの埋蔵文化財を探してみることが楽しみ方の一つとして頂きたい。



国立歴史民俗博物館の常設展示。右側中段の土器2点が
大久保遺跡出土土器（国立歴史民俗博物館所蔵）＝筆者撮影

首都圏で出会える 青森県出土の埋蔵文化財

村本 恵一郎

（五戸町教育委員会
教育課社会教育班長）

しかしながら、調査の歴史は遺物流出の歴史でもあった。是川遺跡（八戸市）出土の多くの遺物を守った泉山兄弟の例は稀であり、現在、首都圏の博物館には青森県から出土した遺物が多数所蔵されている。今回は、五戸町から出土した埋蔵文化財について紹介する。

①国立歴史民俗博物館（歴博）（千葉県佐倉市）

②東京国立博物館（東博）（東京都台東区）には、倉石中市地区から出土した縄文時代後期の壺形土器が所蔵されている。土器の様式等から甕棺であったと推定されるが、詳しい出土状況や、東博が所蔵するに至った経緯は不明である。常設展示ではないが、縄文土器の優品として定期的に展示されている。

2004（平成16）年に東博が発行した『日本の考古ガイドブック』にも、「縄文時代後期の代表的な土器として掲載されている。同

東京と青森 630号
東京青森会 2020年10月